

# 大

学周辺の池で釣りをしても、フナやメダカ、モロコといった日本固有種を見つけたことがなかった。「ブラックバスやブルーギルばかり釣れるけれど、日本固有種はどこにいるのだろうか」。この疑問が、今年度の「課外プロジェクト」に採択された取り組みの出発点になった。

県立高校で地理歴史科を担当する中で生徒たちの歴史離れを実感し、もつとうまく教えるすべを学びたいと今春、大学院に入学した。研究テーマは歴史授業でのICTの活用。タブレット端末を使った考えさせる授業の実践を目指し、ICTの分野に詳しい森山潤教授の研究室の門をたたいた。同研究室では毎週金曜に、兵教スチューデントファームでの農作業の時間がある。複数の野菜を栽培しており、90分間、草取りや収穫に汗を流し、時には大学裏の池にみんなで魚釣りに出掛けたりもする。その影響で釣りの魅力にすっかりはまった。「畑違いの分野ですが、それも新しい勉強だ」と思い、積極的にやらせてもらっています。ここで自然と触

れ合う楽しさを学びました」

研究室の仲間らと進めるプロジェクトでは、大学周辺のさまざまな池沼で釣りをし、そこに生息する魚や水質を調査している。教員時代に取得した気象予報士の知識を生かしながら釣りのポイントを設定。毎回、釣果を撮影し、記録に残しているが、日本固有種にはまだ出会っていない。「地元

の農家の方に聞いても、昔はよく泳いでいたけれど、近頃は全く見ないと言われました。外来種の影響で数自体が減っていて、もういないのかもしれないね」

11月の大学祭では、途中経過を展示発表する予定だ。「この辺りの子どもたちにとってブラックバスは身近な存在ですが、特定外来生物なので釣ったものを別の場所に移動させるだけで法律違反になります。知らず知らずのうちにしてしまっていることもあると思うので、啓発の必要性を感じています」と、教員の顔をのぞかせる。自身の目指す教員としての心構えと同じく、遊び心を忘れずに取り組むつもりだと笑顔を見せる。



## キラリな人 SHINY PERSON

### お が わ ゆ う た 小川雄太さん

大学院専門職学位課程  
授業実践開発コース1年

昭和60(1985)年、神戸市生まれ。芦屋市の公立中学校を経て、平成25(2013)年から県立龍野北高校で地理歴史科を担当。27(2015)年4月に兵教大に入学し、研究の成果を県全体の地歴科教育に還元したいと意気込んでいる。気象予報士や行政書士の資格を取得するなど、勉強好きな一面も。



◎課外プロジェクトとは  
学生の自主的な取り組みに対し活動資金を支援する学内制度。平成27(2015)年度は小川さんの「日本固有の生体系を守る」など5件を採択した。(P13で紹介)

大学周辺の池沼で  
日本固有の魚を探索  
環境保護の啓発にも  
生かしたいです